

授業公開週間実施報告

研 修 部

【趣 旨】 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

【テーマ】 個の学力を高めるための授業改善

【期 間】 1回目 6月16日（月）～27日（金）

2回目 11月10日（月）～21日（金）

※11月17日（月）～20日（木） コラボレーションフェア

【実施方法】

事前にー

- 時間割を時間割変更黒板に掲示。期間中、出張・年次の場合のみ、赤で斜線を記入する。
- 授業変更が生じる場合は、変更後のクラス・実施場所などを直接書き込む。
- 見てほしい授業（アピール授業）を赤枠で囲む。

期間中ー

- 全職員が必ず自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上の授業を参観する。なお、期間中に参観できない場合は、期間外に参観する。その際は、授業者の承諾を得る。
- フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよいが、時間の半分（25分）以上は参観する。
- 参観時には『参観シート』を持参し、アンケート及び授業者へのメッセージを記入する。
※1授業につき1枚
- 指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者と研修部に配付する。
- 名票を時間割変更黒板に掲示。自教科、他教科各1時間でも参観したら○をつける。

【実施状況】アンケート結果から

「第1回授業公開週間」アンケート集計結果（H26. 8. 21）

アンケート提出者数 47人／53人（88.7%）

参観シート提出者数（≡参観者数）32人／53人（60.4%）

◎参観シート集計結果

質問1	参観日	人数	
1	6月16日	5	
2	6月17日	10	
3	6月18日	8	
4	6月19日	6	
5	6月20日	3	
6	6月23日	7	
7	6月24日	19	◎
8	6月25日	13	
9	6月26日	5	
10	6月27日	5	
	計	81	
	読取不可	1	

質問2	参観校時	人数	
1	1校時	11	
2	2校時	12	
3	3校時	12	
4	4校時	13	
5	5校時	19	◎
6	6校時	14	
	計	81	
	読取不可	1	

質問3	参観教科	人数	
1	国語	29	◎
2	数学	11	
3	英語	8	
4	社会	5	
5	理科	4	
6	商業	20	○
7	保体	1	
8	家庭	2	
9	芸術	2	
	計	82	

1 実施時期及び期間について

I この時期・期間でいい

- ・今回の期間でお願いします。
- ・よい時期だと思います。(7)
- ・いつ実施してもあわただしいので、年2回とすればこの時期で良いと思います。
- ・期末考査前だったが適切だったと思う。
- ・時期、期間は良い。教育実習生の授業も含めて、生徒も見られることに慣れてくるので良かった。
- ・特に問題はないと思います。
- ・考査直前というわけでもなく、非常に丁度良かったと思います。
- ・よかった。2週間あったので、忙しい中でも参観することができた。
- ・2週間という期間がよかった。たくさんの授業を見学できた。実施時期も問題ないと思う。
- ・教育実習生の指導で大変な先生もいたかもしれませんが、かえってフリーでいろいろな先生の授業を見られてよかったと思います。
- ・教育実習や10年研、5年研といった各種研修を集中的に実施できた上に、2週間と長く、余裕があって良かったと思います。
- ・期間について、長め設定の2週間で良かったと思います。

II 多少問題もあるが、仕方ない

- ・東北大会等で不在の先生が多かったので、どうなのかということがありますが、行事も結構あるので、時期や期間に関しては、いいと思います。ただ、もう少したくさんの先生に参観していただき、アドバイスいただければと思います。
- ・東北大会があり余裕がない日程だった(個人的に)。しかしこの時期の他に適切な時期はないと思う。
- ・2週間は長いと思ったが、学校事情で仕方ないと思う。
- ・時期は適切かと。期間は1週間で良いのでは。
- ・教育実習と重なったのでよけい忙しかったが止むを得ないか。
- ・教育実習生の来校と重なりがあったが、本校の特性を考えればこの日程以外ないのではないか。

III いつでもいい

- ・年間を通して常に公開してもかまわないと考える。
- ・時期はいつでもかまわないと思います。

IV 変更してほしい

- ・テストが近く、問題演習の時間に重なることもあった。
- ・実施期間中は教育実習生を迎え入れる時期と重なり、空き時間のほぼすべてをその指導に費やされるため、授業見学の調整がやや困難であった。期末考査後の実施であればありがたい。
- ・11月中旬～下旬あたり。
- ・年1回で十分と思います。とても勉強になりました。誠にありがとうございました。
- ・できれば大会等が少なくなる2学期だとありがたいです。
- ・行事等が落ち着いている時期。
- ・実施期間前に行事、大会などあるときつい。
- ・考査前でなければいいと思います。

2 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

I グループ学習など

- ・班形式にして話し合う形の授業がよかったので取り入れてみたい。
- ・グループ別活動。
- ・グループ学習(クラス全体の前で発表できない生徒も自分の意見を言う機会を持てるので)。
- ・ペアワークを立ててやらせるやり方(動きが出るのでメリハリが出るから)。

- ・机を向き合わせグループになって、個々に問題演習をし、わからないところを教え合う形式。
- ・グループ討論、ディスカッション形式。
- ・グループで話し合うグループ学習があったので、教材によっては取り入れてみたいと感じた。
- ・生徒同士で話し合う場面を取り入れる。

II 視聴覚教材の活用

- ・Big Pad等を活用してみたいと思った。
- ・図を使って考え方を説明するやり方（わかりやすいから）。
- ・絵や図を用いて、視覚に訴える。
- ・佐藤寛仁先生が、保健の授業をパワーポイントで行っていて、動画や写真などを見せるには効果的だと思った。
- ・小西先生の実物投影機を使った説明方法を取り入れてみたいです。
- ・生徒への伝達手段として、もっと工夫した視聴覚機器の活用をしたい。
- ・ビッグパッドを使った授業（プロジェクタより良さそうなので）。
- ・視聴覚教材の多用。
- ・実体（実物）映写（商業科プログラミングの授業）。
- ・コンピュータ室で授業を行う際にセンターモニタにパソコンの画面だけを映していたが、ホワイトボードに手書きした内容も映すことで、後ろの生徒も見やすくなっていた。
- ・登場人物が複数いて複雑な場合、顔写真を黒板に掲示するなどして視覚に訴える授業。

III 板書の仕方

- ・見やすい図表の板書。
- ・生徒の引きつけの仕方と板書。
- ・板書の仕方。文字の大きさがバランスが良いと思われた授業があった。
- ・板書。やはり永遠の課題かな。

IV その他

- ・藤中先生の、教室内で行った実験のような、驚きのあるしかも納得感のある授業が勉強になりました。
- ・新聞の記事をまとめること、理科に関わる記事を紹介するなどの活動。
- ・英語の単語カード。
- ・ノートを書かせるタイミングのしつけなど。
- ・図を使って考え方を説明するやり方（わかりやすいから）。
- ・歴代の総理大臣を答えさせることで授業の中身にすんなり入っていくテクニック。
- ・all Englishを保つこと。
- ・生徒の考えの引き出し方、間の取り方（内容というよりも技術）。
- ・「本時の課題」の提示の仕方や授業の最後のまとめの部分など。
- ・2つの授業を見させていただきましたが、いずれも指導者の真摯で誠実な姿勢が生徒に伝わり、生徒たちも集中して取り組んでいました。
- ・教師の熱意、姿勢がまず重要だとあらためて感じました。
- ・生徒の立場に立った丁寧な授業の進め方。
- ・船木先生の授業。起立して詩を読むなど。

3 今後、自分の授業で改善したいと思っていること

I 板書の仕方

- ・板書の仕方。
- ・手早く見やすい図を板書できるように工夫したい。
- ・板書の工夫と発問の仕方。
- ・参観した授業は板書がきれいで、しっかり計画されているように感じた。

- ・本時の授業内容が一目でわかるような板書。
- ・自分は文字が大きいので、板書スペースが足りなくなるので改善したい。
- ・板書の工夫について。

II 視聴覚教材の活用

- ・DVDや映像の資料を短時間提示する場面を取り入れたいが、準備する時間がない。
- ・生徒がもっと活動したり考えたりする場면을意図的に増やしていきたい。また、視聴覚機器の応用的な使い方を考えていきたい。
- ・視聴覚教材の活用。
- ・学習内容の視覚化。
- ・生徒の目線で、いくらでもわかりやすい授業を心がけたいと思っています。そのために視覚や聴覚に訴える授業を取り入れていきたいと思っています。

III 「本時の目標」の掲示

- ・本時の目標と内容、振り返り確認の一致。
- ・「本時の目標」の提示と出欠確認を素早く行いたいです。
- ・本時の目標というプレートを作ってきちんと掲示することを心掛けたい。

IV 教材の精選・開発

- ・生徒を動かす授業。生徒が授業に集中できるように魅力ある教材の精選。
- ・生徒に思考させる授業教材の開発。
- ・検定内容にとらわれすぎず、教授内容を生かしつつも、秋商生に合った教材を考えていきたい。

V その他

- ・効果的なグループ学習・グループ討議などの生徒の発想力、思考力を育てる授業。
- ・生徒への発問の仕方。生徒とのやりとり。
- ・言語活動をさらに活発にやらせたい。
- ・座学の授業をいかに飽きさせずに行うか。
- ・授業前の準備をしっかりと行った上での授業。
- ・ベルと同時に終わることを心掛けたい。
- ・授業中の無駄や隙をいかに無くし、生徒がいかに充実した学習をできるかという課題。
- ・生徒の活動を多くすること。
- ・生徒自身の問題意識を掘り起こし、考えさせ、それを表現させる授業。
- ・進度を意識した授業づくり。
- ・「学力差が大きい生徒の指導はどうあるべきか」自分の授業だけでは改善できないと考えている。
- ・問題演習に時間をさいてしまっているが、今後は「なぜそうなるのか」を考えさせる授業を検定試験終了後に取り入れていきたい。
- ・まだ「講義」になっているところがある。工夫の余地あり。
- ・学ぶ意義を伝える。授業の内容を「自分で考える力」に変えていく。
- ・いかに集中して話を聞かせるか。
- ・生徒の立場に立った急ぎすぎない授業を目指したい。
- ・音読や生徒の発表など、もっと言語活動を取り入れようと感じました。
- ・歌唱とリコーダーが主であるので、他の内容ジャンルを検討したいと思っています。
- ・1年生の「簿記」の力があまりなく、苦手意識が強いまま2年生の「財務会計」を学習している生徒への対応。→基礎・基本に戻り復習を含めていく。
- ・生徒から自由な意見をひきだしつつ、まとめ上げて授業につなげるようにしたい。
- ・検定対策と生徒に考えさせる授業をうまく組み合わせてやれればと思う。
- ・グループディスカッションを取り入れ、問題提起に対し活発に意見を出させる。
- ・生徒の意見を引き出す授業（発問、課題設定の仕方の工夫、グループワークの導入）。
- ・自己表現の活動や他の人の意見について自分の意見を述べる場面が少ないので、そこを増やした

い。

- ・今回、アピール授業をやってみて、50分間で無駄なことを考えすぎて、本時に行う授業計画が狂ってしまったので、無駄を省き、教えるべきところをしっかりと教えていきたい。
- ・2学期以降の保健の内容が高校生には関心が低い分野なので、課題学習など、興味をひく授業にしていきたい。
- ・応用的な内容を計画的に取り入れる。
- ・指導と評価の一体化について、計画的に改善を進めたいです。

4 その他、感想・提言など

- ・教室の扉が閉まっていたので、開けておくことを決めた方が入りやすいのでは？
- ・同じ教科の授業が同じ時間帯に多く、見られなかった科目もあった。
- ・教育実習生が6名おり、他教科を参観する余裕がなかった。
- ・他の授業を見る時間がありませんでした、すみません。
- ・教育実習の期間にかぶる場合は教育実習の先生の授業もカウントして下さい。負担が大きすぎる。
- ・校務多忙で参観できなかった。ただ、時間を作れば行くことができたが、行かなかったことについては大変反省している。
- ・今回見たものがすべて演習形式であった。
- ・総合実践では、近い将来実際に役立つであろう業務内容について、模擬的に活動がなされていた。その中でも特に、「社外からの連絡対応」で、言葉遣いや書類の書き方など、実際の学校生活でも必須の事項について丁寧に教授されている姿が印象的であった。また、秋田商業生としてあるべき姿が培われていることを実感することができた。

体育の授業では、マット運動の苦手な生徒が取り組みに消極的だったが、きめ細やかな対応で次第に積極的に取り組む姿が見られた。あらためて複数での指導の大切さを認識した瞬間であった。これらの授業見学の経験を含めて、諸先生方の意見もいただきながら、自らの授業をよりよいものへと改善していきたい。

- ・このような機会は多くはないため、是非継続していただきたい。なお、最終的に感銘を受ける授業の源は、指導されている先生の人間性（知識・経験の豊かさ）に他ならない。今後は教師としての資質向上のためにも、授業参観のみならず、学校業務から離れた研修も検討していただければありがたい。

例 普通科の先生

(女) 登山・ハイキング (あえて悪天候実施)

(男) 職場体験 (魚屋・市場など)

商業科の先生

2泊3日のサバイバルキャンプ (電子機器使用不可)

体育科の先生 料理教室 (細かい作業)



「第2回授業公開週間」アンケート集計結果（H26. 12. 11）

アンケート提出者数 51人／51人（100%）

授業参観者数 51人／51人（100%）

自教科参観者 48人／51人（94.1%） うち、自教科のみ参観1人

他教科参観者 50人／51人（98.0%） うち、他教科のみ参観3人

※「参観確認票（名票）」より

◎授業参観した数

授業数	自教科(人)	他教科(人)
1	35	37
2	10	10
3	3	2
4		
5以上		2
計	48	51

※「事後アンケート」より

◎参観した他教科

※商業（25人） ※保体（19人） 数学（8人）

地歴・公民（8人） *家庭（8人） 英語（3人）

国語（3人） 理科（2人）

*アピール授業実施教科

◎参観シート集計結果

授業参観した日		授業参観した校時		授業参観した教科	
10日(月)	2	1校時	24	国語	15
11日(火)	8	2校時	34	数学	13
12日(水)	8	3校時	26	英語	10
13日(木)	6	4校時	17	社会	12
14日(金)	25	5校時	22	理科	6
17日(月)	8	6校時	22	商業	59
18日(火)	4	無効回答	4	保体	17
19日(水)	18			家庭	12
20日(木)	29			芸術	0
21日(金)	38			無効回答	5
無効回答	3				

1 実施時期及び期間（11/10～21）について

I この時期・期間でいい

- ・時期的にはいいと思います。2週間もよいと思います。
- ・2週間はちょうどいいと思う（やはり1週間では短い）。また、コラボレーションフェアと重なるようにした方が、保護者にも一緒に見てもらえるので意識が高まると思う。
- ・公開が2週間というのはちょうどよいと思う。時期は様々な行事があるが、今年のやり方もよいと思う。
- ・時期はいつでも忙しいと思うのでこれでよいと思う。期間も2週間あれば、時間がなくて参観できなかったとはならないと思う。
- ・学年部の行事との兼ね合いもあったが、余裕を持って取り組むことができた。
- ・忙しい時期ではあるが他の期間で実施しても忙しさはさほど変わらないので、この時期で良い。

- ・いつの時期も様々な意見があると思いますが、僕はよい時期だと思います。
- ・妥当。やはり2週間は必要。アピール授業が1週目からあってもよかった。アピール授業は参加しやすく、良い試みだ。
- ・2週間はほしいと思った。
- ・1週間よりも2週間の方が余裕があって良い。
- ・現在の形でよい
- ・問題ない。
- ・適している。
- ・良いと思います。(2)

II 検討の余地あり

- ・いいと思います、時期は。期間は1週でよいかと。
- ・適切だと思います。3学期にもう1回あってもいいのでは？

III いつでも授業見学できる雰囲気

- ・公開週間以外の時期にも、お互いに授業見学に行く雰囲気があればと思う。どの時期をとっても、それぞれの部活ごとに忙しさがあるだろうし、教科、科目によってもアピールしやすい時期、単元があると考える。

2 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

I 視聴覚教材の活用

- ・ICTを取り入れた保体(寛仁先生)の授業。
- ・かねがねICTは活用したいと思っていたが、板書代わりにとても気軽に授業に取り入れているひな子先生の授業が参考になった。
- ・ビッグパッドを使った授業に自身も取り組んだが、雅博先生の使い方がとても参考となった。
- ・情報機器は使いたい(BigPad)。使い方や活動内容を吟味する必要がある。
- ・ICTを活用することにより、授業がスムーズになるし、生徒へ与える印象も良くなる。
- ・ビッグパッドの教材を用意して年に2~3回はやってみたい。
- ・情報機器を活用した授業、いろいろ課題はあるが生徒が興味関心を示すのであれば、取り入れるべきかと感じた。
- ・ビッグパッドを3階でも使えるようにしてほしいと思いました。(使いたい。)
- ・ICTを用いた効率化で生徒が思考する時間を多くとること。
- ・特にアピール授業をおこなった経済活動と法は、電子黒板とパソコンを使いながらだったので、ぜひ、取り入れてみたいと思う。私の簿記の授業は精算表もあるので。
- ・ICTを使用した授業では「授業の提示」の利便性を感じた。同じ教科で行うことも可能になるのではないかと感じた。商業の授業以外でも活用できる場が広がると思う。
- ・簿記の帳簿記入や決算処理のしかたをコンピュータを使用して説明するのを取り入れてみたいと思いました。
- ・電子黒板を使った授業。
- ・プロジェクター等の活用。
- ・その場で行えるアンケート集計。
- ・パソコンを使った授業。
- ・VTRによる過去の内容説明。
- ・動画などの映像を活用してみたい。
- ・視聴覚機材を使用してみたい…と思うが、うまく使える自信がない。講習会などがあれば…と思う。

II グループ学習など

- ・グループワークを活用したい。ICTを活用したい。

- ・グループ活動。
- ・グループ活動を通しての授業。
- ・一斉授業でやる時間と、グループ（4人）にする時間を組み合わせる方法。
- ・グループに分かれ演習問題を解くことで、グループごとに指導しつつ、グループ内での教え合いができるようになっていたこと。
- ・情報処理の授業では、コンピュータ部員が極自然にクラスメートの指導を行っていた。自分の教科に於ても授業中に生徒同士の教え合い、助け合いの場面を作り、クラス全体の学習意欲を高めることができないか考えてみたい。

Ⅲ その他

- ・コーヒーを飲んでリラックスした中での授業もありかと。
- ・掲示物の事前準備で板書時間短縮。
- ・社会の授業で、具体的な法の内容の勉強をふまえての授業は大切だと思った。
- ・生徒にスラッシュを入れさせながら、音読させる。
- ・授業の最後に感想を述べさせているのが良いと思いました（振り返りになるので）。
- ・アクティブ ラーニング。
- ・新カリで来年度持つ可能性のある教科なので参考になった。
- ・ゆっくりと時間をかけた基礎学力のていねいな指導。
- ・辞書をしっかりと使わせる。
- ・ファイルにプリントをとじさせる。

3 今後、自分の授業で改善したいと思っていること

I 視聴覚教材の活用

- ・ICTの活用。
- ・もっとICTを活用できるようになりたい。
- ・ICTをただ活用だけで終わらせず、生徒にもっと還元させたやり方を考えたい。
- ・ビッグパッドの利用。
- ・積極的にパソコンを導入する。
- ・本校にある機器の状況も知りたいと思いました。（スクリーンの数、etc…活用環境も含めて）

II 発問の仕方

- ・考えさせ、答えてもらえる発問。永遠の課題だな。
- ・読みを深める発問を授業に多く取り入れ、生徒の声を生かしながら授業を進めていきたい。
- ・保健において発問の工夫が必要と感じている。
- ・今までは本文をしっかり読んだり、少し考えたりすれば誰でも答えられるような問いが主だったが、深く考えさせるような問いかけを生徒の実態を見ながら取り入れるようにしたい。
- ・発問のねらいが明確になっている授業をしたいと思います。
- ・発問の仕方。

III 思考させる授業

- ・思考させることの必要性、答えを与えすぎないよう、どう考えさせ、学びを身につかせるか取り組んでいきたい。
- ・教師がしゃべらない時間を必ず3分以上確保しているつもり。生徒が思考に取り組みやすいような指示の仕方。
- ・すぐ結果（答え）を出すのではなく、なぜこうなるのかという原因も追及しながら答えを導き出してやりたいと思います。
- ・生徒に考えさせるための工夫をしたい。考えさせるための発問の仕方や、考えさせるためのヒントの出し方を考えていきたい。そのためにもICTの活用が必要だと改めて感じた。

- ・演習をする時間を長くとっているのが、変化をつけながら考えさせる授業をしていきたいと感じました。ありがとうございました。

IV グループ活動

- ・場面に応じたグループワークの活用の仕方を改善したい。
- ・グループ活動のしかた（グループになるタイミング、1グループの人数など）。
- ・グループ討論。
- ・グループ学習をどう進めるか。
- ・生徒のグループ活動を増やす。

V 活動させる授業

- ・なるべく生徒が活動する授業にしたいと思っています。
- ・体験活動の強化。
- ・座学の質や量を減らさずに実技・実践の時間を確保すること。また、そうした授業にシフトした場合の考査問題のあり方。
- ・一斉講義形式からの脱却。
- ・ディスカッションや討論などを取り入れて言語活動の充実を図りたい。

VI 板書の仕方

- ・板書のボリュームを調整したい。
- ・板書の仕方。工夫する点が多いと感じて改善に努力しているところです。
- ・板書の工夫。(2)

VII その他

- ・個人個人の苦手意識を解消していく授業の進め方。
- ・能力差に対応し、全員が楽しみながら技能も身につけられるような授業。
- ・めあてをしっかりと持たせたいです。
- ・今以上に、まめに机間巡視。
- ・教室における授業の工夫（資料、グループ構成など）。
- ・生徒が興味を感じ、自主的に問題解決に取り組む授業を、もっと積極的に仕掛けていきたい。
- ・授業への集中力を高められるようにしたい。
- ・検定対策とわかりやすい授業の両立。
- ・メリハリのある授業。
- ・生徒が授業に活発に参加する雰囲気作りについて改善していきたい。
- ・何もかもです。

4 その他、感想・提言など

- ・1回目より、見るポイントが「ICT等の活用」ということで明示されていてよかった。
- ・アピール授業をやりましたが、コラボレーションフェア、修学旅行等行事が重なっており、準備がおろそかになってしまい、お粗末な授業になってしまった。
- ・教科内における研究授業を実施したらいいと思います。ある程度強制力（研修部が中心となって）をもって、教科ごとの研究授業・反省会を実施してみてもはどうでしょうか。
- ・もう少し、研修を積みたいです。

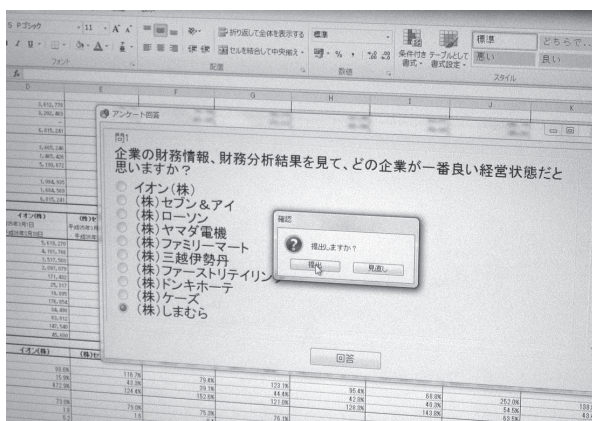
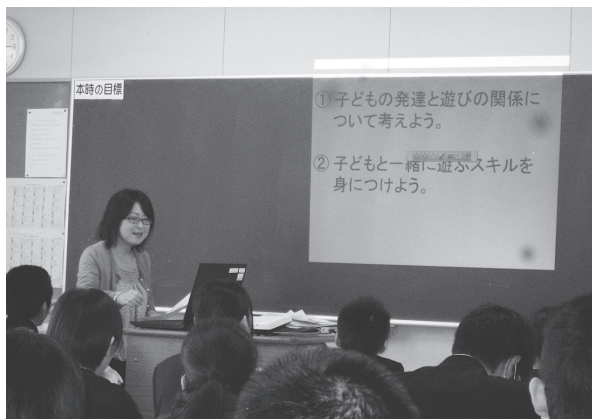
【考察】

今年度は、「個の学力を高めるための授業改善」を年間の研修テーマとし、このテーマに則って、2回2週間ずつ、授業公開週間を行った。

1回目の参観率は60.4%だったが、2回目は100%を達成することができた。1回目は教育実習生の指導や、部活動の大会等と重なってしまったが、2回目は比較的余裕のある期間設定であったということであるが、何よりも先生方の研修意識の高まりの現れと見たい。そしてまた、2回目は

1回目よりもアピール授業を行ってくれる先生方が増えたこと、特に多くの先生が関心を持っている「ICTの活用」を積極的に実践している先生方の授業が見られたことによる効果が大きかったと思われる。

常々校長が言われている「授業研修・授業改善はまず人の授業を見ることから。」という言葉をお忘れなくしたい。



アピール授業の様子

ビジネス実践「AKISHOP」

商業科 櫻庭 咲子

1 はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動など行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。

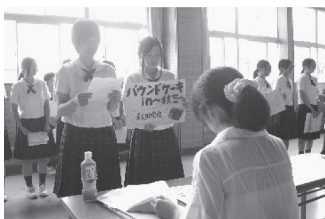
この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は一步踏み出して失敗しても粘り強く取り組むことのできる（前に踏み出す）力、疑問を持ち、考えることのできる（考え抜く）力、多様な考えを持つ人とともに、目標に向かって協力することのできる（チームで働く）力の3つの力と定義している。



2 今年度の取り組み

(1)企画検討委員会の開催

一昨年度より本部が商品開発に協力していただけの企業を事前に確認したり、新たに協力いただける企業を模索し、企業交渉を行っている。学校に招いた企業の前で各班がプレゼンを行い、企業の方から審査してもらうシステムにしたことによ



り、各班が行う企業との電話交渉、商品試作を引き受けていただく企業の選定などの負担が少なくなっている。

この取り組みにより生徒は実社会に近い体験ができ、商品化の難しさを実感するとともに、商品化に成功した際には達成感を味わうことができた。

(2)AKISHOPの活動を広報し、外部イベントに参加

AKISHOPの組織の中に広報班を設け、「AKISHOP=物売りイベント」という外部からの印象を払拭するとともに、授業の集大成であることをアピールした。



広報班の主な活動は年間を通じて各班の活動風景を写真に収めるとともに活動内容取材し、「AKISHOP JOURNAL」というフリーペーパーを作成して、ビジネス実践の活動内容を広報することであった。

また、地元企業が行っている「サンワ市」や農業協同組合が主催する「ふれあいフェア」、湯沢市で行われた「うどんエキスポ」やアゴラ広場で行われた「食のフェスティバル」等にも積極的に参加し、AKISHOPの活動を広く秋田県内外の人々にPRするとともに、開発商品の販



売を行い、様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。

(3)仲小路商店街との連携

今年度は国民文化祭が開催されていることもあり会場を秋田駅前に移し、「秋田市民市場」「なかいちプラザ」「アゴラ広場前」でAKISHOPを開催した。

また、仲小路商店街が主催するハロウィン



イベントとも連携し、AKISHOP当日は開発商品の販売だけでなく、イベントを盛り上げるために積極的にイベントの手伝いを行った。さらに、仲小路商店街のイメージキャラクター「ナッキー」をモチーフとした商品を開発する「ナッキー班」を設け、ドリア、プリン等の2種類の商品を開発し、販売した。

(4)セールスプランニング班の設置

昨年度の反省として年1回の開催ではなく、生徒が地元企業と共同開発した商品を通年



販売できるようにした方がよいとの意見があった。そのため、今年度は通年販売を目指してセールスプランニング班を設置し、秋田市民市場内に常設店舗を出店することを計画した。セールスプランニング班では6月から市民市場を見学し、市場調査を実施しながら店舗設計を行った。夏休み明けからは接客方法や広告宣伝の方法を学習し、10月から販売実習を行い、会計処理までを体験した。しかし、現在常設店舗には至っておらず、不定期での開店となっている。

(5)秋田駅前・勝平地区クリーンアップの実施

クリーンアップを行うことで日頃お世話になっている地域やお客様への感謝の気持ちを示すため、AKISHOP前日に生徒400人がゴミ拾いを行った。当日は天候にも恵まれたため、半日をかけて生徒たちは積極的にゴミ拾いを行った。

3 今年度の振り返って

今年度のAKISHOPは10月25日（土）に秋田駅前の3会場で開催した。今年度はステージイベントを行わず、各班の開発商品の販売に重点を置いたため、生徒たちは自分たちがアイデアを出し、秋田市内の企業に製造していただいた菓子や惣菜を大きな声でPRしながら販売した。AKISHOPでは例年3,000個ほどの商品を販売しているが、今年は国民文化祭やハロウィンイベントも同日に開催されるため、約6,000個の商品を販売することになった。AKISHOPを統括する本部では売れ残りを心配していたが、市民市場やOBの方々のおかげもあり、ほとんどの商品を売り切ることができた。販売当日はお客様から「秋田商業の生徒の考えた商品だと買わなきゃいけないなあ」「毎年楽しみにしているよ」と声をかけていただき、生徒たちは達成感を味わうことができたようである。

前年度までの反省・課題を踏まえて新たな活動を行い、改善を図ったが終えてみるとまだま



だ改善の余地があることが分かった。ビジネス実践「AKISHOP」は来年度も総合的な学習の時間を活用して継続していくことになるため、生徒が将来就職した際にそれぞれの会社で活躍できるように社会人基礎力を養うことができる活動にしていきたいと考えている。

ビジネス実践「キッズビジネスタウン」

商業科 石田 雄 哉

今年度は10月24日（金）、25日（土）に7年目のキッズビジネスタウンが開催された。天候も良好で、1日目は勝平小と出戸小の児童175名、2日目は県内各小学校から一般参加として237名の児童が参加した。例年、学習発表会との日程の重なりが心配されるため、重ならないよう1週早く実施した。そのため、事前申し込みは約230名、当日申し込みは43名と好調であった。実際は、当日不参加もいたため、最初に述べた人数となった。

1 キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、商業高校で学習した「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を子ども達に教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2 今年度の活動

今年度は2・3年生の希望者が38名で、1人1店舗の社長として活動した。1年生の公欠も少なかったため、高校生のスタッフは多くなった。

①スケジュール

- ・6月：ガイダンス、基礎学習
- ・7月：店舗の模索、決定
- ・夏休み：企業への交渉、研修等
- ・9月：求人票、マニュアルの作成
- ・10月：店舗準備、1年生への指導
- ・11月：本番、報告会

②今年度の開設店舗

年	組	番	氏名	決定	担当教員
2	A	4	小柳 寛人	はんこ工房	船山
2	A	7	諏訪 諒	銀行	大関
2	A	8	仙花 一輝	ラーメン（ホール）	倉光
2	A	24	小林 瑞季	占いの館	戸田
2	B	4	斉藤 優	モロヘイヤ麺	大関
2	B	16	金子 愛華	空港（航空会社）	石田
2	B	23	嵯峨しほり	アクセサリー工房	大関
2	B	32	永井穂乃華	アロマ工房	千田
2	D	1	石塚 陸	消防	大関
2	D	9	齋藤 卓人	ハローワーク	石田
2	D	13	高橋 拓也	テレビ局	石田
2	D	34	高橋 玲奈	カフェ&ベーカリー	石田
2	E	5	今野 恭輔	ラジオ局	千田
2	E	11	武石 元気	レストラン（ホール）	中嶋
2	F	9	竹内 大喜	そば（ホール）	倉光
2	F	38	松岡千香子	手芸工房	須藤
3	A	6	須田 宥弥	車屋	船山
3	B	11	保田 駿	税務署	中嶋
3	B	13	秋本 葉月	抹茶屋	須藤
3	B	35	堀 裕奈	ラーメン（調理）	倉光
3	C	1	相原 和幸	お好み焼き	千田
3	C	6	加藤 武	警察	高橋
3	C	7	鎌田 俊皓	リサイクルアート工房	三浦
3	C	20	三浦 大輔	ババヘラ	三浦
3	C	34	原田 未来	花屋	戸田
3	C	38	三浦 美奈	ネイルサロン	中嶋
3	C	39	村上 春花	科学研究所	千田
3	D	19	正木 央	キッズタウンオフィス	戸田
3	E	1	石山 明敬	たこ焼き	船山

3	E	5	鎌田 優太	木工工房	高橋
3	E	9	今野 諭	アイス屋	高橋
3	E	14	堀井 架	文房具駄菓子屋	船山
3	E	15	三浦 圭斗	宅配センター	三浦
3	E	16	三浦 幸亮	クレープ	戸田
3	E	17	安田 拓海	ザ・カレー	中嶋
3	F	1	石川 泰寛	病院	須藤
3	F	3	金田 和磨	そば(調理)	倉光
3	F	8	櫻庭 和久	クリーンアップ協会	須藤

3 当日の様子

1日目は勝平小と出戸小が事前説明を受け、事前に学習をしてきてくれているので、高校生にとってはよいリハーサルとなっている。昨年と同じく、勝平小の要望により9:00~13:00、出戸小は10:00~14:00の活動となった。

2日目はスムーズに業務に入ることができ、生徒と小学生は楽しく仕事をしていた。子ども達は、「働いて楽しかった」や「働くことの大切さやお金の大切さがわかった」などの意見を寄せてくれた。保護者からも「働いて給料を得るという社会の仕組みを体験する事によって、お金のありがたみが理解できたようだ。いろいろな職種を体験してとても楽しかったと言っていた」などの意見が寄せられた。人気のある店舗は科学研究所やアロマ工房など製造業が多かった。また、カフェやたこ焼きなどの飲食店も人気であった。高校生に対しても、大変好印象を持ってくれた。

しかし、客足の予想が難しく、保護者の方からは「メルクを使いきれなかった」「最後に買い物できる店舗が少なかった」などの意見が寄せられた。また、「受付をスムーズにしてほしい」「飾り付けが不十分だった」「メニューに出来上がりの写真がほしい」などのすぐに改善ができ



る貴重な要望も寄せられた。

総じて大変高評価であった。細かな点まで改善を行い、よりよいものを目指していきたい。

4 来年度に向けた課題

① 入場時の受付をスムーズに

- ・一般参加者に資料を送付する際に「整理番号」をくばり、受付で番号を言ってもらうようにすると良い。
- ・受付の窓口数は2つでは不十分で、最低でも3つ、できれば4つはほしい。今年度は、当日受付を事前申込が終わった後に行ったが、目立った混乱はなく、クレームもなかった。

② 店舗名

- ・昨年の反省から、生徒に店舗名を考えさせたが、逆にわかりづらくなったりしたので、こちらで命名したほうがよかった。

③ 最後に消費させる店舗

- ・例年、終了時間ギリギリまで働き続け、最後に消費をしようとする児童が多い。その時点では売り切れも多く、メルクを使い切ることができない。
- ・駄菓子などを最後の時間に販売する分として取っておき、体育館周辺で販売するようにはどうか。
- ・時間毎に販売数を設定するなど、最後まで販売が継続されるような工夫が必要である。
- ・飲食店など、時間毎に販売量の変動するものの営業時間を検討する。ハローワークや銀行、税務署はシステムフューチャーの助言により、最初の1時間は求人止めていた。



ビジネス実践「エコロジカルビジネス」

英語科 大 堤 直 人

1 はじめに

ビジネス実践の枠組みの中に「エコロジカルビジネス」の部門が設けられてから2年目になる。この班は今年度、3年生6名、2年生12名、教員2名で構成されていた。昨年度と同様に、「企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた『持続可能な社会』の構築のために行動する力を育成する」ことを目標にしながら多様な活動を行った。

2 今年度の取り組み

今年度取り組んだことは、以下の三つのものに大別することができる。

(1)外部講師による講座（秋田県の「環境の達人」地域派遣事業による）

次の期日に講師の方々に来校してもらい、講座を受講した。10月2日には、ユネスコスクールである大曲南中学校の2年生29名が来校し、本校で一緒に受講した。

6月12日(木)「地球温暖化と異常気象」アーバンマイスターの会幹事 渡部純氏

10月2日(木)「地球温暖化について」IPC
Cリポートコミュニケーター 佐藤英明氏

10月16日(木)「環境にやさしい豊かな社会づくり」SING代表 竹内伸文氏

(2)企業やNPO法人などとの連携

具体的な連携先と、その連携先で行った主な活動は以下の通りである。

株式会社コバリン…もみ殻を固めて作った各種ボードの展示場を見学

一般社団法人あきた地球環境会議…秋田県認

定りサイクル製品を紹介

NPO法人秋田パドラーズ…雄物川河口での
クリーンアップ活動に参加

伊藤良治様…小学生と一緒に秋田杉の廃材から
リサイクル箸を作成

秋田ユネスコ協会…「高校生のためのユネスコ
国際理解セミナー」で発表

(3)AKI SHOP、キッズビジネスタウンでの活動

ビジネス実践の他の二つの部門と連携して、いくつかの活動を行った。

AKI SHOPのメインイベントが開催された日の前日、エコロジカルビジネスの生徒たちは午前中にボランティアとして学校周辺でのクリーンアップ活動を行い、午後には秋田市雄和地区までマイクロバスで移動し、畑でダリア摘みを行った。



これは国民文化祭の一環として秋田市中通地区の美術館周辺にダリアを飾るイベントに合わせ、その地区の方からの依頼により行うことになったものである。当日は、農家の方々の指導を受けながら数百本のダリアを摘んだ。このダリアは翌日、ハロウィーン関係のイベントに参加した子供たちに手渡され、その子供たちがダリアを美術館前の広場に飾りつけた。



エコロジカルビジネスの生徒たちは、まだ使用することができるが使われないうちになつてしまつてしまつたものをあらかじめ家庭から持ち寄つていたが、AKISHOPのメインイベントの当日、それらを販売するフリーマーケットを開いた。この取り組みにより5,430円の収益が上がつたが、これは秋田ユネスコ協会主催のアフガニスタン寺子屋運動支援募金キャンペーンへの寄付金として使用した。



フリーマーケットの近くでは、あきた地球環境会議のメンバー2名が秋田県認定リサイクル製品を紹介するブースを設けた。多数の来場者が様々なりサイクル製品を手に取りながらアンケートに答えていた。一方、2年生の男子生徒はほうきとちりとりを持ちながら、会場周辺の清掃を適宜行った。フリーマーケットでの販売



を終えた2年生の女子生徒は午後から、前日に自分たちが摘んできたダリアを子供たちに手渡す作業を手伝つた。

一方、3年生の女子生徒4人は、キッズビジネスタウンの中でリサイクル箸の作成講座を担当した。これは、来場した小学生があらかじめ棒状になつた秋田杉の木材にやすりをかけ、最後に伊藤良治さんに仕上げてもらつたうえで無料で持ち帰ることのできる講座である。昨年度より多くの小学生、100名前後の小学生がこの講座に参加した。



4 ユネスコスクールESD優良実践事例に選ばれる

今年度はちょうど国連ESD（持続可能な開発のための教育）の10年の最終年にあたり、春先からユネスコスクールESD優良実践事例の募集の案内が来ていた。学年主任としての仕事に専念したいという思いから当初は応募しないつもりであったが、締め切り日前日に思い立って書類を書いてメールで応募したところ、全国146校からの応募のうち、ユネスコスクール世界大会（兼全国大会）分科会発表校22校の一つに選ばれた。

11月上旬に岡山大学で行われたその大会の第19分科会で、ビジネス実践の主担当である保坂徹教諭と一緒に、「商業高校の特色を生かした環境教育」というテーマで発表を行った。この大会には参加しなかつたものの、秋田パドラーズ主催のクリーンアップ活動への参加の発案をはじめとして、今年度の班の活動全般を主導したもう一人の担当教員、菊地亜紀教諭に感謝の意を表して、この今年度の報告を締めくりたい。

通常の学級における多層指導モデルMIM（ミム）

～つまずきのある読みを流暢な読みへ～

健康・教育相談部 藤 中 由 美

読字に困難を感じる児童・生徒を取り巻く問題と支援の方法を研究している国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子先生のセミナーに参加したので、その概要を報告する。

1 読字指導の重要性

小中学校の通常の学級において、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする生徒は6.5%程度の割合で在籍していることが明らかになっている（2012年、文部科学省）。同時に、それ以外にも学習面や行動面で何らかの困難を示している児童生徒が存在し、すべての学校においてこれら児童生徒への支援が喫緊の課題となっている。

「読み」に困難を感じる障害を読字障害といい、学習障害の一つに位置づけられる。読字障害は、一文字一文字を読むことに大きなエネルギーを注ぎ、文章内容の理解に何倍もの時間を費やしてしまう。その結果、国語のみならずすべての学習に手応えを感じられなくなり、自己評価の低下、更には不登校といった二次的支障につながるケースも見られる。

学習障害の中でも読字障害はつまずきが見えやすいため、小学校低学年の段階に気づき、早期に読字指導を開始することは、不要なつまずきを無くし二次障害に歯止めをかけること、そして全ての学習の土台づくりにつながる。

2 多層指導モデル（MIM）開発の観点

- ・ニーズの高い子どもを含めた全ての子どもの学びを保障する学習指導モデル
- ・早期のニーズの把握と先回りの支援
- ・学んでいくこと、生きていくことの土台づくりのための学習
- ・アセスメントに基づいた根拠のある指導
- ・学級、学年、学校、地域で取り組む支援

以上の観点から生まれた指導モデルが、「多層指導モデル（MIM）」である。

3 MIMによる読字指導

MIMによる読字指導の方法は、音と文字との結びつきを理解させるために、文字を「視覚化」し、読みの習得に「動作化」を取り入れていることが特徴である（例 文字の数だけ手を叩く等）。

海津先生の研究対象は小学生であり、小学校1年生の国語の教科書を使用したものであったため、その詳細については割愛する。

4 MIMによる読字指導の効果

- ・特別な支援を必要としている子どもだけでなく、異なる学力層の子どもの読み・書きの力にも影響を及ぼした。
- ・特殊音節の読みに限らず、特殊音節の書き、読書力の総合的な力（読解力を含む）にまで効果が及んでいた。
- ・読字に困難を来している子ども群の8割が「読むことが好き」「読むことが得意」と感じるようになり、「読み」に対する見解が変化した。

5 MIMに関する新たな動き

「読み」はすべての学びの土台であり、学習障害の子どもたちの学習を通して見えてくる「つまずきやすい課題」と「それを克服する指導法」が、支援を必要としない他の子どもたちにとっての学びやすさにもつながる。福岡県飯塚市、石川県小松市、東京都足立区では「MIMの活用に関する事業」を立ち上げ、全小学校でMIMによる指導を実践している。

教科書の改編にも影響を与えている。平成27年度の「新編 新しい国語」の教科書には、文字と音が対応していない特殊音節がマークにより「視覚化」され、音の特徴をしっかりと認識させるように改編されている。

参考 日本小児精神神経学会第16回研修セミナー 通常の学級における多層指導モデルMIM 資料

商業高校生未来創造事業平成26年度生徒ビジネス研修

商業科 小西 一幸
" 佐藤 俊平

はじめに

本校で行っているビジネス実践は、学校で学んでいる商業の学習を基本にして、その実践の場という位置づけである。

毎年様々なことに挑戦し続けているが、大きく枠組みを変えたり、斬新な取り組みのアイデアを考えることも求められている。

そこで、来年度のビジネス実践の中心になって行く2年生（7名）を対象に、長期休業期間を利用し生徒ビジネス研修を実施することにした。この研修で得たことを実現してほしいものである。

1 日程（予定）

1月8日（木）

- 7:45 秋田空港集合
- 8:50 秋田空港発
- 14:00～15:30 東京証券取引所研修
- 16:00～17:00 三井住友信託銀行
デーリングルーム研修
- 19:00～ 夕食・宿泊

1月9日（金）

- 10:00～11:30 ピクシブ株式会社研修
- 13:30～15:00 寺田倉庫株式会社研修
- 18:10 羽田空港発
- 20:00 秋田空港で解散



2 日程（予定）

東京証券取引所

新しい教育課程では、2年生で「ビジネス経済」を履修していることから、日本経済の要である東京証券取引所の見学を決めた。

2時間程度の見学コースも設けられている。昔のイメージでは、証券会社の社員が身振り手振りで株を売買しているというものである。



見学した場面は、他の市場の動向や上場されている企業の現在の株価を見ながら、コンピュータで株の売買をしているところであった。

本校の生徒を会社に見立てて、株式会社を設立して株を公開し、株主総会を開くまでの流れを説明していただいた。

また、1部や2部上場の決まりや、アローズやマザーズなどの市場の違いと仕組みも丁寧に教えてもいただいた。

この証券取引所が世界から注目され、日経平均株価などの動きに世界経済や日本経済が一喜一憂しているとはとても思えないほどの静かさだった。

しかし、すべての売買をコンピュータで取引するようになり、市場規模や一日の出来高が数





倍になっていることを教えてもらおうと、証券会社の人たちがコンピュータを通して、世界をここから操っているような気がしてきた。

三井住友信託デーリングルーム

本校のOBが長年勤めていた会社である。今回の研修で東京証券取引所を見学することを伝えたところ、是非見学に来てほしいとお誘いを受けての見学である。

ここでも200人ほどの社員が、ヘッドフォンとマイクを付けコンピュータに向かって、株や証券などの売買をしていた。主に海外の市場と為替取引をしているということで、会話は英語であった。



また、生徒たちはセキュリティが厳しく、撮影も禁止されていることを知らされると、ここが特殊な場所なのだとわかり緊張していたのが印象的であった。

ピクシブ株式会社

イラストや絵を中心としたSNSを展開する会社である。出版社の方から紹介してもらい見学することができた。

会社の建物自体はあまり大きくなく、従業員は80人程だが、世界のSNS事業をしている1,000社中、売上では上位20社に入っているということであった。この業界の収入の主なものは、広告である。

イラストや絵の著作権につい



ては、制作者に帰属していて、勝手に利用できないと学校で教えている。

しかし、ここで扱っているものについては、話題にして広く知ってもらいたいという意図から、それぞれの人たちが、自ら書き写す二次制作は認められているということであった。

寺田倉庫株式会社

寺田倉庫株式会社

寺田倉庫株式会社は、ワインや絵画、フィルムなど特殊な保存をする倉庫を提供し、そこに新しい価値があるとビジネスを展開している会社である。

しかし、前日にトラブルがあり急遽見学ができないと連絡をもらった。残念であるが、これも実社会の現実であると感じた。

おわりに

生徒の感想には、「今回の研修は、東京証券取引所と三井住友信託銀行を見学し、ここが日本経済を動かしている心臓部なのと思った。そして、ピクシブ株式会社などの新しいビジネスを展開している企業は、様々な生物が環境の変化に応じて進化しているようなものだと感じた」と書かれていた。

教科書に書かれていたことが生徒たちの目の前に現れ、経済や企業のダイナミズムを感じることができたのは大きな収穫であった。

この研修の有益性が実感できたので、将来的にはリーダーズキャンプなどで企画し、参加する生徒たちを増やしていければよいのではないかと考えている。

キャリア教育としての秋商「現代社会」

地歴公民科 泉 広 宣

1 はじめに

秋商「キャリア教育」という言葉が定着してきた。地歴公民科として、新教育課程への移行に伴い、全員履修させる科目の学年を変更し、1年で現代社会、2年で日本史A 3年で世界史Aとした。1年の現代社会を、高校生としての基礎基本と位置づけ、多様な進路実現に向けての基礎教養科目として、履修してもらうことにしたのである。

ちなみに、秋商キャリア教育に掲げた、地歴公民科の目標は以下のとおりである。公民教科である「現代社会」の目標は、特に下線部の部分にあるといえよう。

今年度、地歴公民科3人で担当することになった。今年1年間の取り組みを簡潔にまとめ、秋商における「現代社会」で強調すべきポイントを特にキャリア教育の考えを踏まえて考えてみることにした。

人間関係 社会関係形成能力	自己理解 自己管理能力	課題解決能力	キャリア プランニング能力
わが国の多様な世界との歴史過程を学び、 <u>良識ある社会人としての基本的な知識を身に付けること</u> で、「 <u>多様な立場の人間を理解し協働して社会を形成していく能力</u> 」を育成する。		<u>資料を読み取り、原因—結果を探究する歴史的思考力を培うこと</u> で、「 <u>主体的な課題解決能力</u> 」を身に付けさせる。	<u>優れた先人の業績を学ぶこと</u> で、 <u>困難を乗り越える「生きる力」</u> を身に付けさせる。

2 年間実践と基礎基本内容

公務員試験やセンター試験を受験することを考えて、秋田商業のカリキュラムを考慮した場合、もっとも点数がとれるのは、やはり「現代社会」あるいは「政治経済」を選択することである。その意味でも全員が、**政治経済の基本を学ぶことは重要である**と考える。そのような理由から、教科書の進行とは違うが、できるだけ政治分野・経済分野の基本の学習を進めていく方針で進めることにした。

(1) 1学期

○社会は「人間がつくったもの」であり、「人間の尊厳と権利を守るため」にある。そのために日本国憲法があるとの考え方は、高校生になった今こそ定着させたい考え方である。また、国連が進める動き、発展途上国の取り組みなどの世界的視野を育てながら、「**人権教育**」を定着させることが、秋商現代社会の第1歩である。

第Ⅱ部第2章第1節 民主社会の原理と日本国憲法

1 近代立憲主義の原理 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法

【中間考査】

4 平等権と差別 5・6 自由権 7 社会権、参政権、国務請求権 8 広がる人権
第2節 日本の政治機構と政治参加

1 国民主権と議会制民主主義 2 国会の役割と責任 3 内閣と行政の責任

【期末考査】

(2) 夏休み課題

「第1部 現代社会の諸課題とそのとらえ方（教科書 p 5～28）」から次の内容をグループで分担して、レポートを書くことを夏休みの課題とした。提出されたレポート内容を見れば、特に資料の選び方、内容の理解度、表現方法にはかなり問題があるが、9月上旬の段階で85%の提出状況はますますといえるだろう。以下は生徒に提示した内容である。

- ①『沈黙の春』の内容を調べてみよう。いつの時代のどんな内容か。現代につながる課題はあるのか。
- ②『水俣病』の内容を調べてみよう。いつの時代のどんな内容か。現代につながる課題はあるのか。
- ③『地球温暖化』を防ぐ国際協力が進まない理由を考えよう。2つ以上の立場（発展途上国・アメリカまたはヨーロッパ諸国から考えよう。
- ④『熱帯林の減少』と種の絶滅について調べてみよう。どのくらいのスピードで『生命』が失われているのか。種の絶滅がおきると何が問題なのか。
- ⑤日本にふさわしいエネルギーについて考えよう。原子力発電に頼らないエネルギーがあるのか。現状はどうか。
- ⑥『高度情報社会の課題』について調べてみよう。
- ⑦その他の現代社会の諸課題（自由テーマ）

大きさ：A4サイズ 枚数：表紙を入れて6枚以上。（裏表ならば3枚以上）
採点基準：1 期限内に提出されたか。2 内容の適切さ 3 レポートの見やすさ。
4 結論または感想をしっかりと書いているか。 5 複数の資料を利用しているか。

○第2次世界大戦後、1950年代後半に、日本だけでなく世界の多くの地域で「現代社会」としての問題点が出そろっていることに気づかせたい。

ただ、二学期始まってすぐにレポート内容を発表させながらの授業を展開する予定だったが、こちらの準備不足、提出できなかった生徒への対応が遅かったこともあり、実施できなかった。三学期最後に、総評を含めて実施することにした。

(3) 2学期

第Ⅱ部第2章 第2節 日本の政治機構と政治参加

- 5 司法の役割と責任 6 地方自治の役割 7 政党政治のしくみとマスメディア
8 選挙制度とその課題 9 平和主義と日本の防衛政策 10 これからの日本の安全保障

【中間考査】

第Ⅲ部第3章 第1節 市場経済のしくみ

- 1 経済活動と市場の考え方 2 市場の限界 3 経済活動の大きさや変動 4 企業の役割
5 産業構造の変化と企業 6 中小企業と農業の問題 7 金融の役割 8 政府と財政の役割
9 財政の課題

【期末考査】

○経済分野は、同じ1年で履修する商業科の「ビジネス基礎」との内容のダブリが散見される。今後は積極的に授業参観を行い、共通する知識を共有しながら授業を展開する必要がある。

(4) 3学期

高校生として1年間を過ぎようとしている時期に、キャリア教育の中の「優れた先人の業績を学ぶことで、困難を乗り越える『生きる力』」培うことを念頭において授業を展開したい。

特に、哲学（ソクラテス・プラトン・アリストテレス・ベーコン・デカルト）や宗教の創始者（ブッダやイエスやムハンマド）をできるだけ、どんな点で悩んだのか、どうやって克服したのかをどのように生徒に考えさせるかが今後も大きな課題となるだろう。

第Ⅱ部第1章 第1節 青年期の意義

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 私たちの生きる時期について考えよう | 2 私たちが抱く悩みについて考えよう |
| 3 男女について考えよう | 4 社会参画について考えよう |
| 第2節 よく生きるとは | |
| 1 生きることについて考えよう | 2 学ぶことについて考えよう |
| 3 宗教について考えよう | 4 日本人の思想について考えよう |
| 5 日本の伝統と文化について考えよう | |

【学年末考査】

3 おわりに

何事も、1度実践してみることが大切である。同じ内容を3人の教師がどのように取り組み、どんな問題点をもったのか、今後、地歴公民科会を開きながら検証していきたい。また、多くの先生からご意見を伺って、さらに秋田商業の生徒の「生きる力」として定着できるものにしていきたい。